

個別の教育支援計画 「釧路モデル」



釧路教育局管内特別支援連携協議会

<はじめに>

個別の教育支援計画（釧路モデル）「マリーモ」

1 個別の教育支援計画「マリーモ」の内容と活用例

① フェイスシート	本人の記録を記入する。
② 相談・支援の記録	連携機関名等について記入する。 あわせて、資料や検査結果等についても可能な限り綴じるようにする。
③ 教育の記録	校名及び担任名等について記入する。
④ 合理的配慮の内容	本人、保護者と共有した合理的配慮の内容について記入する。
⑤ 現在の様子 ※幼児期用⑤-1、学齢期用⑤-2	子どもにかかわる支援の手立て等について記入する。（年度ごとに1枚ずつ作成し加えていく）
※①～⑤-1、2に必要な応じて加筆しながら、支援計画として活用を図る。	

2 使い方

- このファイルは幼稚園、保育所、認定こども園～高等学校等及び就労先まで引継ぎ、関係機関との連携の状況、学校での指導の記録を蓄積することで、継続的な支援を行うために作成するものです。ファイルの利用により、一人の子どもを幅広い視野の多くの目で見守って育てていくためのツールとすることができます。
- 各幼稚園、保育所、認定こども園、学校の実態を踏まえ、本計画（釧路モデル）を参考にしながら、様式等を改善して作成することができます。
- 記入できるところのみ記入します。

<改訂のポイント>

- 「フェイスシート」に生育歴、療育・教育の状況、医療に関わる特記事項を明記する欄を設け、各関係者が子どもの育ちを共有できるようにしました。
- 「相談・支援の記録」に担当者・連絡先を記入する欄を設け、サポートマップの頁との統合を図りました。
- 「合理的配慮の内容」を記載する頁を設け、合理的配慮を適切に提供するとともに、関係者で共有、引き継げるようにしました。

記入例

作成日：令和 ○年 ○月 ○日

氏名	釧路二郎		男・女	生年月日	平成・令和 ○年○月○日
保護者	氏名	釧路太郎 花子		電話 自宅	○○○○-○○-○○○○
	住所	釧路市○○		携帯	○○○-○○○○-○○○○

続柄	氏名	職業・学校等	その他の特記事項
父	釧路太郎	会社員	近くに母方の祖父母が住んでいる。 母が仕事の際は、祖父母が自宅に来て子供たちの世話をしている。
母	釧路花子	パート勤務	
兄	釧路一郎	○○小学校○年生	
妹	釧路月子	○○幼稚園年少	

生育歴については、療育・医療に関係する以外は記載する必要はありません。

会社名や役職名など詳細に記載する必要はありません。

生育歴	<ul style="list-style-type: none"> ・出産時 2,550g 一人歩き 1歳2か月 片言を言う 2歳 ・赤ちゃんのころ、よく寝て手がかからなかった。 ・ことばを話し始めるのが遅かったが、兄も遅かったので気にならなかった。 ・3歳児健診でことばの遅れを指摘され、○○発達支援センターを紹介された。
療育・教育の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・H○年～○年 ○○発達支援センター(週に1回の指導) ・H○年～○年 ○○幼稚園 ・H○年～○年 ○○町立○○小学校ことばの教室(1年生から週1回)
医療に関わる特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・(耳鼻科)3歳半から滲出性中耳炎で、鼓膜の切開を行っている。 ・(小児精神科)3年生の時、医師から「読み書き障害の疑いがある」と言われた。

記入例

	相談・支援機関等	期 日	内 容 ・ 結 果 等
1	〇〇発達支援センター 担当者:〇〇 〇〇 連絡先:〇〇-〇〇〇〇	平成 29 年 6 月 5 日	・言葉の発達の遅れがあるので「できるだけ話し相手をしてあげること」と言われた。
2	〇〇病院〇〇科 担当者:〇〇 〇〇 連絡先:〇〇-〇〇〇〇	平成 30 年 9 月 14 日	・聞こえの心配については、中耳炎があるためと診断され、鼓膜切開を行った。
3	〇〇養護学校 担当者:〇〇 〇〇 連絡先:〇〇-〇〇〇〇	令和 元 年 4 月 11 日	・言葉の発達を促す言葉かけの仕方について助言を受けた。
4	〇〇町就学指導委員会 担当者:〇〇 〇〇 連絡先:〇〇-〇〇〇〇	令和 2 年 8 月 7 日	・言語障がいの通級による指導を受けることが適当との判断を受けた。
5		令和 年 月 日	相談した際に先方からあった話の内容を簡潔に記録してください。
6		令和 年 月 日	
7		令和 年 月 日	
8		令和 年 月 日	
9		令和 年 月 日	

*各機関の担当者へお願い

相談・支援等を行った場合は、このシートに概要を記入してください。資料や検査結果のコピーなども可能な限り綴じてください。

記入例

	学校・園名	在籍期間	学級担任		備考
	〇〇幼稚園	平成〇年〇月	未満児	〇〇先生	支援員 :〇〇先生
			年少	〇〇先生	
			年中	〇〇先生	
			年長	〇〇先生	
小学校	〇〇市立〇〇小学校	平成〇年〇月	1年生	〇〇先生	通級 :〇〇先生
			2年生	〇〇先生	
			3年生	〇〇先生	通級 :〇〇先生
			4年生	〇〇先生	
			5年生	〇〇先生	TT :〇〇先生
			6年生	〇〇先生	
中学校	〇〇市立〇〇中学校	令和〇年〇月	1年生	〇〇先生	
			2年生	〇〇先生	
			3年生	〇〇先生	
高等学校	〇〇高等学校	令和〇年〇月	1年生	〇〇先生	
			2年生	〇〇先生	
			3年生	〇〇先生	
			4年生	〇〇先生	

記入例

観 点		支援の内容
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学習上又は生活上の困難を改善、克服するための配慮 ・学習内容の変更・調整 	<ul style="list-style-type: none"> ・動作等を利用した意味理解や繰り返しの練習を通して、学習内容の取得の困難さを補う。
教育方法	<ul style="list-style-type: none"> ・情報、コミュニケーション及び教材の配慮 ・学習機会や体験の確保 ・心理面、健康面の配慮 	<ul style="list-style-type: none"> ・指示や説明が長いので、端的に説明する。
支援体制	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性のある指導体制の整備 ・幼児、児童、生徒や教職員、保護者への理解啓発 ・災害時の支援体制の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・周りの友だちに、書くことへの配慮が必要なことを周知する。
施設・設備	<ul style="list-style-type: none"> ・校内環境のバリアフリー化 ・発達、障がいの状態及び特性等に応じた施設、設備 ・災害時等への対応に必要な施設、設備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブラインド等、光の調整を可能にする整備により、見えやすい環境を整備する。 <div data-bbox="847 1576 1406 1809" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>本人・保護者と合意形成が図られた内容を記録してください。全ての観点を記入する必要はありません。</p> </div>

*合理的配慮の位置付けにあたってのプロセス

支援の内容については、観点を参考に、どのように提供するか、具体的に合理的配慮を記載します。また、その成果や課題を引き継ぐことで、切れ目のない指導や支援につなげることができます。

記入例

○歳 ○か月 作成日：令和○年 ○月 ○日

希望や願い

		現在の希望	将来の希望
本人		楽しく学校に行きたい。	自分の考えを言えるようになりたい。
保護者		友達と仲良くしてほしい。	自分の責任を果たす人間になってほしい。

本人の希望が明確でない場合は記載する必要はありません。

◆支援の長期目標◆

- ① 自分の思いをしっかりと話すことができる。
- ② 友達と仲良く遊ぶ。

◆支援の短期目標◆

- ① 自分の気持ちを表現することができる。
- ② 他の子と一緒に活動しようとする。

	気になること（課題）		成長のための手立て	
	本人について	環境について	本人について	環境について
生活面	睡眠、食事、排泄、衣服の着脱、清潔の習慣、生活時間にかかわることについて記入します。			
	支援の結果			
行動面・運動面・感覚面	特徴的な様子が見られる項目に記入します。特に思い浮かばない項目は無理に記入しなくて結構です。			(R.O.O 記入:○○ ○○)
	支援の結果			
人とのかわり	どの項目に記入してよいか迷ったときは、その行動や様子が多く見られる項目に記入します。			(R.O.O 記入:○○ ○○)
			一年間の支援についての評価・反省を記入します。	
支援の結果				
		人との関係、コミュニケーションの様子、場面やルールの理解について記入します。		(R.O.O 記入:○○ ○○)

記入例

○学校 第○学年 作成日：令和○年 ○月 ○日

希望や願い

	現在の希望	将来の希望
本人	楽しく学校に行きたい。	普通高等学校への進学を希望している。
保護者	友達と仲良くしてほしい。	高等養護学校への進学を希望している。

◆支援の長期目標◆

- ① 自分の思いをしっかりと話すことができる。
- ② 友達と仲良く遊ぶ。

◆支援の短期目標◆

- ① 自分の気持ちを表現することができる。
- ② 他の子と一緒に活動しようとする。

	気になること（課題）		成長のための手立て	
	本人について	環境について	本人について	環境について
生活面	睡眠、食事、排泄、衣服の着脱、清潔の習慣、生活時間にかかわることについて記入します。			
	支援の結果			
	特徴的な様子が見られる項目に記入します。特に思い浮かばない項目は無理に記入しなくて結構です。		(R.O.O 記入:○○ ○○)	
行動面・運動面・感覚面	行動や性格の特徴、感情の起伏や気持ちのコントロールについて記入します。			
	支援の結果			
			(R.O.O 記入:○○ ○○)	
学習面	どの項目に記入してよいか迷ったときは、その行動や様子が多く見られる項目に記入します。		一年間の支援についての評価・反省を記入します。	
	支援の結果			
	得意な教科や苦手な教科、家庭学習の様子、学習意欲など、学習全般にかかわる様子を記入します。		(R.O.O 記入:○○ ○○)	
人のかかわり				
	支援の結果			
	人との関係、コミュニケーションの様子、場面やルールの理解について記入します。		(R.O.O 記入:○○ ○○)	

<参考>

個別の教育支援計画とは

特別な教育的支援を必要とする児童生徒等の一人一人のニーズを正確に把握し、教育の視点から適切に対応していくという考えの下、長期的な視点で乳幼児期から学校卒業までを通じて一貫して的確な支援を行うことを目的に作成する計画

(参考)

- 平成15年度から実施された障害者基本計画においては、教育、医療、福祉、労働等の関係機関が連携・協力を図り、障がいのある児童生徒等の生涯にわたる継続的な支援体制を整え、それぞれの年代における子どもの望ましい成長を促すため、「個別の支援計画」を作成することが示されました。
この「個別の支援計画」のうち、児童生徒等に対して、教育機関が中心となって作成するものを、「個別の教育支援計画」といいます。
- 平成30年8月に学校教育法施行規則が改正され、同規則第134条の2では、個別の教育支援計画について「学校と医療、保健、福祉、労働等に関する業務を行う関係機関及び民間団体との連携の下に行う当該児童等に対する長期的な支援に関する計画」と示されました。
- 平成30年8月の学校教育法施行規則の改正により、校長は、特別支援学校及び特別支援学級に在籍する児童生徒、通級による指導を受けている児童生徒について、個別の教育支援計画を作成しなければならないとされました。

Q1 なぜ、学校と関係機関や民間団体が連携する必要があるのですか。

A1 特別な教育的支援を必要とする児童生徒等のニーズは、教育、医療、福祉、労働等、様々な観点から生じうるものです。これらのニーズに対応した取組はそれぞれ独自に展開できるものもありますが、類似しているもの、不可分なものも少なくありません。したがって、教育という側面から対応を考えるに当たっても、医療、福祉等の面からの対応の重要性も踏まえて関係機関等の連携協力を十分配慮することが必要となります。また、医療、福祉等の面からの対応が行われるに当たっても、教育の立場から必要な支援・協力を行うことが重要です。

Q2 個別の教育支援計画はどこで作成するのですか。

A2 各学校が作成することとされています。
校長は、校内委員会で個別の教育支援計画を作成するに当たり、作成の中心となる教員（作成の対象となる児童生徒等が在籍する学級の担任、特別支援教育コーディネーター等）や作成に関わる校内委員会の構成員の役割を明確にすることが重要です。
特別支援教育コーディネーターは、あらかじめ、校内委員会において、学校内における個別の教育支援計画の共通様式等の作成や作成の行程を提示しておくことが重要です。

Q3 個別の教育支援計画は、保護者の同意が得られない場合でも作成する必要がありますか。

A3 保護者の同意が得られない場合も作成する必要があります。
平成30年8月の学校教育法施行規則の改正により、各学校における個別の教育支援計画の作成が義務付けられました。
なお、個別の教育支援計画を学校と関係機関の情報共有や学校間等での引継ぎに活用する際には、本人や保護者の同意が必要です。